

会 議 録

会 議 名	平成 3 0 年度第 2 回野田市立図書館協議会
議題及び議題毎 の公開又は非公 開の別	1 平成 3 0 年度（4 月から 1 2 月まで）野田市立図書館事業実施状況報告について（公開） 2 平成 3 1 年度野田市立図書館基本方針、具体的施策及び事業計画について（公開） 3 平成 3 1 年度野田市立図書館の選書について（公開）
日 時	平成 3 1 年 2 月 1 9 日（火） 午後 2 時から 3 時 4 5 分まで
場 所	樺のホール 2 階 興風図書館会議室
出席委員氏名	委員長 筒井 圭子 副委員長 河合 章男 委 員 青柳 康幸、村越 健志、山田 喜美子、文道 尚子 筒井 仁美、鈴木 美由紀、大澤 一秋
欠席委員氏名	武井 信一、石原 和子
事 務 局	杉山生涯学習部長 寺田興風図書館長 小関興風図書館館長補佐 真部興風図書館庶務係長 加藤興風図書館図書サービス係主査 新宮南図書館長 関北図書館長 金子せきやど図書館長
傍 聴 者	無し
議 事	平成 3 0 年度第 2 回野田市立図書館協議会の会議結果(概要)は、次のとおりである。
興風図書館庶務 係長	委員 1 1 名中 9 名の出席により会議が成立していること、会議を原則公開としており、会議の傍聴について市報及び市のホームページで周知していること、傍聴の申出がないことを報告する。

筒井委員長	＜委員長が挨拶を行う。＞
生涯学習部長	＜生涯学習部長が挨拶を行う。＞
興風図書館庶務係長	会議資料や会議録を市のホームページに掲載するとともに市役所及びいちいのホールの行政資料コーナーに配置すること、会議録作成のため録音することを報告する。
筒井委員長	議題１ 平成３０年度（４月から１２月まで）野田市立図書館事業実施状況報告について、事務局より説明をお願いする。
興風図書館館長補佐	＜平成３０年度（４月から１２月まで）野田市立図書館事業実施状況について報告する。＞
筒井委員長	質問、意見などあるか。なお、議事録作成のため発言の際は氏名をお願いしたい。
大澤委員	登録者数に限らずいずれの指標も昨年度に比べると減っている傾向であるが、全体的にまんべんなく減っているのか、それともどこかの年齢層が特に減っているとか、そういうことはあるのか。人口減少やインターネットの普及などの社会情勢から、全体の傾向としては減っているが、その中で年齢によって特徴があるのか。
興風図書館館長	登録率については小学生までは結構高いが中学生から低くなっていく。一度利用登録するとその後一度も利用がなくても登録は５年間続くので、高校生くらいになると段々と低くなっていき、その後の大学生や社会人の３０歳代くらいまでが利用登録が一番低くなっている。年齢的には段々と利用が少なくなっていくというのはあるが、人口も一番多かったときから比べれば何千人と減ってきているので、同じようにサービスを行っている場合は必然的に図書館の利用も減ってくるのかなと思う。
河合副委員長	野田市と旧関宿町が合併して１５年が経過し、当時生まれた子がもう中学校を卒業しようとするくらいの年齢になり、当時中学校３年生だった生徒はもう３０歳である。それをもって、合併前に図書館がなかったから関宿地区の利用が少な

生涯学習部長	いという説明で終わってしまうという捉え方で、いつまでもそれでいいのだろうかという疑問を持ったので申し上げておきたい。 そういう捉え方を今現在もしているというのは、いわゆる子供を図書館へ連れてくる親の世代が当時の世代だったという、そういう分析をこちらではしている。今、小さな子供あるいは小学生の親の世代が育った過程において、図書館が生活の中に染みついていなかったという現状があるので、自分の子供を図書館へ連れていこうとか、図書館へ行きなさいとか、そういうことがなかなかないという状況があるのではないかという分析をしている。ただ、それに甘んじてはいけないので、関宿地区の子供たちにできるだけ本に親しんで、読書の習慣を付けてもらおうという方策を来年度展開しようとしているところである。特に学校図書室との連携を重要視しており、その中で公共図書館と学校図書室でやっていきたいと考えている。私どもとしても数字だけの評価とすれば、関宿は格段に落ちているということが正直なところなので、そこに甘んじてはいけないということは重々承知しているので、これからも分析をしつつ前進したいと思っている。
河合副委員長	説明の仕方として、やはり前向きに聞こえるようにすることは必要だと思うので、こういうことをしているという自分たちの実績に対する評価であってほしいと思った。
鈴木委員	最近図書館をよく利用するようになったが、前に比べると子供たちが少なくなったと感じる。前は座る席が一杯になるくらい子供たちがいた。反対に高齢の方が多いと感じた。子供たちに来てもらうために、子供たちが喜ぶような企画とか、子育て中の母親が気になるような企画などももちろん大切であるが、高齢の方が図書館にいるということは良いことであると思う。日曜日にゆっくり本に囲まれて、お金も掛からずに好きな本を借りていけるというのは、とても素敵なことだと思う。せっかく高齢の方が多く図書館に来ているので

図書サービス係 主査	あれば、来てよかったと思えるような高齢者向けの講座などの企画もたくさんあった方が良いかなと思う。 3月に初めての試みであるが、祖父母のための絵本講座を企画した。父親や母親がなかなか来館していただけないのであれば、祖父母にアプローチしてみようという意図での企画である。ただ、そういった層へ絵本を広報する方法がなかなか見えないため、うまくいくのかどうか心配している。委員の皆様のお知り合いの方へお声を掛けていただくなど、御協力をいただければ助かる。高齢の方と子供たちが一緒に図書館を利用していただけるということも、これからは考えていかなければいけないのかなと思っている。
筒井委員長	先ほどの小学生は多くて中学生は少なくなるという話は以前からそうであるが、小学生と言っても1年生から6年生までいるわけで、多分親と一緒に図書館に来ておはなしを聞いたり本を借りていたりする1、2年生は結構利用していると思うが、3年生以上の子供は本から離れてしまっているのではないかなと思う。小学生というところをもう少し分析して、1年生は図書館バッグをプレゼントしたり、図書館学校を行ったりしているのでフォローできていると思うが、本当に自分から厚い本を読む力が付いてくる年代の子に対するアプローチがあまりにもないのではないかなと思う。例えば学校に出向いてブックトークをすとか、絵本から本当の読み物に橋渡しをする部分をもうちょっと何かできるのではないかな。それによって中学生の来館する率も高くなってくるのではないかとすごく感じるが、その辺は何か方策があるか。
興風図書館館長	こちらでも仕事の合間に行けるところは行っているが、いかにせん学校との関わりということが一番大切なことなので、学校との調整の中でできたところに出向いて行って向こうの司書やコーディネーターへはそういった指導を行ったりしているが、それ以上の生徒までの関わりまではなかなか持ちにくいという状況はある。計画を少し申し上げるが、今度

筒井委員長	それを関宿の方でもうちょっと深く図書館の職員が生徒との関わり合いを持てるようなことで進めようかと思っている。 私たちが小学校へ出向いておはなし会を小学校1年生から6年生までずっと行ってきて、それはもう30年も続いているが、今年度は高学年が入れにくくなってきていて、委員に校長先生もいらっしゃるのでよく分かるかと思うが、小学校に対していろいろな要求が来っていて、次年度からは英語もあるし、連休も長くなるということで、高学年のところにおはなし会が入れなくなっている。ますます子供たちは読書離れ、特に4年生、5年生、6年生が危惧^{きぐ}されるところなので、是非ともその辺、学校はいろいろなことを抱えているのは分かるのだけれども、図書館の方からアプローチしていかないと学校の方から本のことをお願いしますという要望はきくと来ないと思うが、いかがか。
青柳委員	学校教育として図書館とどう関わるのか、社会教育として図書館をどうするのかということが混在しているので、学校の立場で言うと、いくら図書館が学校図書館とかをやってくださったとしても教育課程に入らない限りは、学校は1回やりましたという単なるイベントになってしまう。そこで、その結果が図書館の活用になって子供たちの読書活動が広がるというところまではいかないと思う。やはり教育課程の中にどうやって位置付けるかということを学校がやらない限り、イベントで終わってしまう。もう一つ言わせていただくと、教育課程が結構変わってきて、言語活用などが重視されているので読書活動を充実させようということは意識としてはある。ただ学校図書室は数が限られていて蔵書数が足りないくらいなので、図書館には行きたい。行きたいけれども行く時間がない、調べる時間がない、そういうところもお互いのニーズが何か合致できるようなシステムがあれば相当学校は食いつくと思う。教科書は市内全部同じであるので、国語でこんなことをやっているというのはどこの学校も同じであるの

生涯学習部長	で、そうすると並行読書でこんな本が必要だというのは把握しようと思えばすぐできると思う。もしできなければ、教育研究会の国語部会と連携するなどして、こういう本が学校では必要だと、それを学校が、例えば川間小学校では各学年担任が一人なので、その先生が全部セットして、この本を探していますということはなかなか行けないので、4年生だったらこういう本がありますというように、逆に提案していただくと、その情報を教育課程の中に位置付けて、学習活動の中に位置付けてすぐ反応できるということが分かるかなという感想を持っている。 校長会との話がまだ公にされていない中での話で、図書館と、昨年度まで興風図書館の司書であった職員が学校教育部の指導課に異動して、学校図書館の活性化と公共図書館の連携という役割を担うという位置付けで、生涯学習部としては司書を一人送っているが、その中で、今校長先生からお話があったように、校長会とも相談をさせていただきながら学校図書室を活性化する。私どもは読書を推進する。片や学校現場としては、読書は学力向上の役に立つわけであるし、人格形成にも役立てていただける。読書を推進していこうという大きな目標は合致していると思っているので、そういった中で関宿地区の校長先生方とはお話をさせていただいて、来年度はいろいろな形で協力関係を築きたい。そういった中で先ほど興風図書館長が申し上げたように、低学年は今いろいろな形でおはなし会というものが入っているので、ブックトークをやらせてくれないかと提案したら、それは良いですねとおっしゃっていただいている校長先生もいらっしゃる。全地域展開というのは、なかなか来年度は難しいと考えているので、とりあえず関宿地区でどれだけのことができるのかまずやってみて、更にその後は校長会や教頭会など学校へお話をさせていただきながら、これから進めていこうという入口の段階である。来年度何ができるか、指定管理者の皆さんの協
--------	---

興風図書館館長	力もいただかなければならないので、そういった形での協議をこれから進めていこうとしているところである。 補足させていただく。先ほど委員長から小学生の分類をもう少し細かくした方が良いのではないかという御意見もありましたので、次回の資料として検討させていただきたい。
河合副委員長	同じことが中学生もあるということで、中学生の場合もっと極端で、この数字はほとんど1年生しか読んでいないのではないかと私は思っているくらいである。これは昔からそう、私も中学1年生で読書が終わった。皆さんもそうだと思う。中学2年生からは部活動と受験になってしまう。どうしても中学生は。ということは中学校2年生や3年生に本を読ませようというのは今の日本の教育では極めて難しいので、1年生のうちにどれだけ読ませるかを考えた方がまだ現実的かなと思うが、そういったことを含めて特に指定管理者の皆さんには、学校の、特に野田市の今の教育の進め方をよく理解していただいて、現実に合わせて進めていただきたいと思う。もう一つ申し上げると、皆さん大体御存知と思うが、ゆとり教育という言葉に対する批判が強かったので、簡単に言えば学力重視ということで授業数が増えつつある。そうすると子供たちは当然外に出られなくなるので、塾産業も当然必要になってくるので、ますます子供たちは自由に動く時間が少なくなっているということを御理解いただきたい。先ほど図書館にいる子供が減ったという話があったが、それは文部科学省の方針でもある。私はゆとり教育が良かったと思っている人間であるので、そう申し上げる。
文道委員	おはなし会の話が先ほどから出ているが、今おはなし会は単なるおはなし会ではなくて、各地方に行くといろいろ工夫されたおはなし会を見たり聞いたりするのだが、野田市の場合はどのような形態で変わってきているところがあるのか。
図書サービス係 主査	野田市の場合は今のところ、物語をそのまま伝えるということを中心に考えているので、特にイベント的に目先を変え

文道委員	て華やかにするとか、パフォーマンス的なことはしていない。物語、絵本に描かれた世界をそのまま子供たちに受け取っていただくということが最終的に、先ほど委員長がおっしゃったが、活字、文学としての読み物につながっていくという考えの下で、現在はそのような形で行っている。 先日、柏市のこども図書館に伺ってきたが、そのときにおはなし会が終わった後に、今熊さんが出てきたよね、熊さんで物語知っている人と先生が話をしたら、はいと手を挙げた子供が半分以上いた。そうしたら、では今度は熊さんの何か読んだ話を聞かせてねと言うと、ようし、今度は僕がお母さんに読んでもらって覚えてきて教えるよとか、私もそうするとか、そのような形で子供たちの方からいろいろと発言があった。そのときに、ああそうか、そこでヒントを一つあげるという形も必要なのかと思った。それからもう一つ、柏市はそのこども図書館だけではなくて、学校の図書に関係する仕事をしている先生と必ず月に1回図書館とのコンタクトを取れる当番制の職員が図書館にいるとのことである。それで、全校ではないらしいが、学校図書館の方に発送コーナーというものがある、学校の要望とか学年に対しての図書の要望が早く伝わるのではないかと思った。
興風図書館館長	その辺のところも柏市に伺っていなかったもので、内容を確認して、こちらで進められるべきものであるかどうかを確認してから考えたいと思う。
図書サービス係主査	貴重な実践例を教えていただき感謝申し上げます。熊さんの話であれば、すぐにこちらでも取り入れられるのかなと思うので職員に伝えたい。こちらも読みっぱなしではなくて、読んだ後に関連する本を紹介したり、シリーズのものを紹介したりと、そこまでは行っていたが、熊さんの話とかそういったことはこれまで考えたことがなかったので参考にさせていただきたいと思う。
河合副委員長	当初、学校図書館に司書を配置したときに、野田市の方が

村田委員	少し進んでいた。野田市は確か資格のある方ということで採用したが、柏市はそれなしでやったので、他市をいろいろと言うのはあれだが私の知る限りでは相当な混乱に陥った。それを何とかしようとする中で、今やり直しているので、抜かれないように頑張っていたきたいと思う。 週に２、３回ほど、子供と一緒にせきやど図書館の方に行っている。上の子供は今１１歳で小学校５年生であるが、ずっと小さい頃から一緒に図書館へ行って活用しているのだが、本の読み方がまだ分からない。図書館はいろいろなイベントがあるので楽しんで足を運んでいるのだが、いざ今になって本を読ませると読めないことがある。図書館はいろいろな事業があって、特にせきやど図書館では３月に謎解きとかを計画されていて楽しみにしているのだが、図書館に来てほしい人を増やすだけなのか、本を読める子を増やしたいのか、その辺りも取り入れながら、内容の中に子供たちが１冊の本をちゃんと読んで読解できるような事業なども増やしていただければと思う。
興風図書館館長	図書館４館の合同で、夏休みの期間に図書館すごろくという事業を始めている。以前はそれぞれの図書館で別々な形で行っていたが、それを合同で行う形にした。簡単な本を沢山借りてもらうのではなくて、長文でも好きな本をきちんと読んでいただくために、図書館すごろくと名前を変えて行っている。後に印象にずっと残るような本を子供たちが読む機会をできるだけ設けたいと考えている。
筒井委員長	ほかに御質問がないようであれば、ただ今説明のあった平成３０年度（４月から１２月まで）野田市立図書館事業実施状況報告については、報告事項なので御了承をお願いしたい。 続いて、次の議題に入る。 平成３１年度野田市立図書館基本方針、具体的施策及び事業計画についてを議題とする。事務局から説明願いたい。

興風図書館館長 補佐	＜平成３１年度野田市立図書館基本方針、興風図書館の平成３１年度具体的施策及び事業計画について説明する。＞ ＜関宿地区の小中学校の児童・生徒等への読書推進について説明する。＞
興風図書館館長	
南図書館館長	＜南図書館の平成３１年度具体的施策及び事業計画について説明する。＞
北図書館館長	＜北図書館の平成３１年度具体的施策及び事業計画について説明する。＞
せきやど図書館 館長	＜せきやど図書館の平成３１年度具体的施策及び事業計画について説明する。＞
筒井委員長	御質問、御意見などあるか。
大澤委員	具体的施策の中に読書手帳の配布があるが、今年の１月１３日頃のニュースで読書通帳という言葉が話題になっていて、それを導入したらすごく利用が増えた。すごく受けたそうである。具体的にどういうものかということ、要は銀行の通帳である。銀行の記帳機のようなものがあって、図書館で本を借りたときにその機械に読書通帳を入れると記帳してくれる。読書したことを記録するから貯金みたいなものである。読書記録を通帳のような形でお渡しする。それをやったらすごく受けたとのことである。自治体によってやり方は違うが、ニュースになっていたのは、最初は子供を対象に全員に配った。そのうちに大人にもそれが伝わって大人にも受けて、大人にも配布してくれということになった。結局それは、大人には有償でお分けしますということになったが、それでも評判がいいということで、実際に利用者数や貸出冊数に数字として出てきたというニュースであった。それは初めての試みということでのニュースなのかなと思いインターネットで調べたら、何年も前からそういうものが入っているところがあって、具体的には内田洋行とかそういったところでシステムを作っていて、いくらするのかまでは書いていなかったが、確かに面白いなと思った。確か以前もこのようなこ

興風図書館館長	とを図書館協議会で話したような気がするが、その時に個人情報云々という話があったが、考えてみたら貸出しをしている時は誰に何を貸しているという情報はコンピュータの中に入っていて、それは返却をすると誰ということは消えてしまうが、貸している時に持っている情報により通帳という形で印字をして当人に渡してもいいわけである。そういうことで個人情報云々ということもクリアできているのだろうと思う。お金が掛かることなのだが、非常に面白いなあと。それがあれば、自分で振り返って、ああこの頃はこんな本を読んだな、また読んでみようかなと、そういう気持ちにもなる。では、読書手帳と何が違うのか。決定的な違いは自分で書くか書かないかだと思うが、やはり自分で書くというのはすごくハードルがあると思う。その差で、ものすごい差が付くのではないかと思う。野田市の財政状況では短期では難しいのかもしれないが、中・長期的にそんなことも考えても良いのではないかと。いろいろと調査をしてみても良いのではないかなと。近隣の自治体の中でも結構やっているみたいである。インターネットで調べると、何社かがそういう機器、システムを出していて事例として公表しているので、いかなかなと思った。 近隣市だと、松戸市が去年から始めている。電算システムを入れ替えたので、それに合わせて読書手帳の配布を行っている。野田市も読書手帳を導入しようとしたときに読書通帳を検討したが、確かに大澤委員がおっしゃるように通帳形式の方がメリットも結構ある。ただ経費を見積もってもらったところ、初期投資が1,500万円以上掛かり、それと手帳自体の購入も逐次行っていくので、それが大体年間300万円くらい掛かるとのことであった。通帳形式の方が利用者からすれば手間が省けて管理もしやすいとは思いますが、経費がかなり掛かることから、今の財政事情の中では、職員の手作りの読書手帳で収まっているところである。
----------------	--

大澤委員	まあ、そうでしょうね。これは高いのだろうなとは思いますがニュースを見ていましたけど。
興風図書館館長	印刷する機械自体は簡易なものであれば50万円以下で買えるが、本を借りた情報を印刷するためには図書館システムにつなげなければいけない。そうすると、どうしてもそのような費用が掛かるということがあったため、読書通帳は断念したという経緯がある。
鈴木委員	関宿地区の小中学校の児童・生徒等への読書推進の取組はすごくワクワクして、どのようなものになるのかなと思って聞いていた。まず学校に行くという話をされていたが、学校の中で時間がないという中、どのようなイメージで生徒は図書に親しむことができるのか。それから、生徒が楽しめるような本について、具体的にどのような本を提案することを考えているのか教えてもらえたらと思う。
興風図書館館長	来年度の予算であり、まだ議会承認がされていないため進めにくいという状況があるため、これから校長会等において説明を行った中で、図書館と学校教育部指導課の職員とせきやど図書館の職員で学校へ出向き、学校と調整をして、図書館職員とか司書が直接学校のそれぞれ持っている図書室の資料と市内の4図書館の持っている資料を貸し出せるようなシステムを組んでいきたいと考えている。そういうことがあるので当然対面で、休憩時間等を使って児童・生徒と職員が直接ふれ合って貸出しや返却を行っていくことを考えているので、その辺の時間の調整を学校と行い、その時間帯にサービスが行えるような形の調整を行っていきたいと思っている。合わせて学校の児童・生徒が望んでいるものがどういったものかということ聞き出せるし、またこちらからアプローチする図書リストも逐次発行していくので、そういったことを行いながら意見交換を児童・生徒と直接交わして進めていきながら根付いていけばと思っている。
筒井委員長	今の関宿地区の小中学校の児童・生徒等への読書推進の件

興風図書館館長	ですが、是非ともおはなし会とも連動させて、私たちがいつも語りに行っているのも、そのテキストとか類本なども一緒に提供できればといいなとすごく思う。これも検討の中には是非入れておいていただきたいなと思う。 せきやど図書館とこれから詰めていく段階であるので、貴重な御意見として、こちらでも考えたいと思う。
鈴木委員	レファレンスについて、調べものには新しい資料が必要であるが、社会福祉の勉強をしていてレポートを書くのに、新しい資料がないという話を聞いた。例えばレファレンスの窓口のところに行って、実は私はこういうレポートを書こうと思っているが資料を紹介してもらえますかと聞けば、今の図書館であれば結構新しい資料が用意してあるということか。
興風図書館館長	今は、一つの市でいろいろな資料をそろえるというのはなかなか難しい。野田市でも今年の資料購入の予算3,400万円、その中での図書購入費3,000万円で4図書館の図書の入替えを行っているが、蔵書全体からすると3パーセント程度の入替えである。そのようなことから考えると、新書を全部入れ替えることは難しいので、千葉県内のネットワークもできており、本が置いてある図書館から借りることも容易になっているので、御相談をいただければある程度は御期待に添えるのではないかと思います。また、借りることができないものについては購入も検討するので、そういったことで御相談いただければと思う。
鈴木委員	私などの年代は、図書館と言うと勉強するところであり、レファレンスという言葉が結構分かりづらかったりするので、調べものは自分で図書館の中を歩いて探すイメージしかない。多分、資料がなかったという人も窓口を利用しなかったと思うので、レファレンスということで相談してくれば調べものなどもやりやすくなるということであれば、レファレンスは知っている人しか知らないのではないかと思いますので、レファレンスということをもう少し分かりやすく、こう

興風図書館館長	いう取組をやっているなので積極的に利用してくださいとやってもらった方が、利用する人もいいのではないかと思います。 確かに図書館のカウンターに直接話をするのが苦手な方や敷居が高いと思っている方も実際にはいらっしゃるのかなと思っている。どれだけできるか分からないが、その辺のところを少しかみ砕いてサービスできるような相談コーナーがあればよいと思う。その辺りはどこまでできるか分からないが、担当と相談したいと思う。
大澤委員	確かに今の発言を聞いていて思った。そういえばレファレンスという言葉は私も昔は知らなかったなと。たまたまある時に知ってああそうかと認識した途端に、レファレンスと横文字を使うと格好良いからそれに酔ってしまうところがある。図書館だけではなくて博物館とか資料館でもそういうサービスがあるので、その言葉に格好いいなと酔ってしまっているが、ふと初心に戻れば、こんな言葉、誰も分からない。だから素直にもっと分かりやすい日本語にした方がよいのではないかと思います。
図書サービス係 主査	案内という表示にカウンター上ではなっている。ただレファレンス、そういったサービスの内容自体を周知できているかという、そうではないかもしれないので、貴重な御意見を頂きましたので、職員一同相談してまいりたいと思う。
筒井委員長	ほかに御意見、御質問がないようであれば、説明のあった平成31年度野田市立図書館基本方針、具体的施策及び事業計画については、御了承をお願いしたい。 続いて、次の議題に入る。議題3の平成31年度野田市立図書館の選書についてを議題とする。 事務局より説明願いたい。
図書サービス係 主査 筒井委員長	<平成31年度野田市立図書館の選書について説明する。> ただ今の説明について御意見、御質問などあればお願いしたい。

大澤委員	図書の購入費は年間３，０００万円と先ほどおっしゃっていたが、その３，０００万円の使い方、一般成人、児童、ヤングアダルト云々、それに対してどのように分配するというのは事前にあるのか。
興風図書館館長	予算が議会承認になると数字が確定するので、それぞれの図書館にどういった分野へどういった金額でということ、それぞれ割り振り、その中で購入を計画していくということを進めていく。
村越委員	平成３１年度野田市立図書館選書の重点分野の中で、児童の絵本について、例えば桃太郎とか猿かに合戦であるとか内容が昔と変わっているが、そういう場合は新しく入れたものに対して古いものはそのまま残さないで処分してしまうのか。
図書サービス係 主査	基本的には新しいものを優先するということはない。子供たちにとって昔話、口承文芸として耳から入って頭の中でイメージして物語を組み立てていくというものなので、子供たちがもっともイメージしやすいもの、なおかつそれを上手に絵が助けているもの、そういうものを優先的に選択するので、新しい古いという基準で処分したり入れたりということはない。
村越委員	見た目より内容優先ということか。
図書サービス係 主査	内容優先である。なおかつ一冊しかない絵本を処分することは基本的にない。表に出さなくなったものであっても書庫には保存する。
村越委員	同じく児童の英語について、新学習指導要領施行に向けて、英語学習に関する資料の需要増加が見込まれるとあるが、プログラミング等の資料の需要の増加も見込まれるが、そちらの方はどのような形になるのか。
図書サービス係 主査	現在も実際に検討している。
筒井委員長	ほかに御意見、御質問がないようであれば、平成３１年度

大澤委員	野田市立図書館の選書については御了承をお願いします。 これで本日の議題は全て終了したが、事務局からほかに何かあるか。 一点質問させていただきたい。今思い出したのだが、千葉県の本更津の友人と話をしていたときに出た話で、自分で調べようと思っていて今思い出したのだが、その方は千葉県内の図書館には教科書は置いていないとおっしゃった。本当かな、だけどそういえば見たことがないなと思ったのだが、野田市内の図書館に教科書は置いてあるのか。先ほども市内の教科書は皆同じだという話があったが、多分1冊あれば全部網羅するのだと思うのだけれども。
興風図書館館長	そういった御意見があり、興風図書館に今市内で使っている教科書と、参考にしたほかの教科書も置いてある。
大澤委員	参考にしたとはどういうことか。
興風図書館館長	教科書は何種類もあるので、選定した教科書以外に、選定する前にそろえた教科書も合わせて、興風図書館の2階に配架している。
筒井委員長	そのほか、事務局から何かあるか。
興風図書館館長	図書館からは特にない。
筒井委員長	委員の皆様から何か御意見、御質問などはあるか。 それではほかに特に御意見がないようであるので、以上をもって平成30年度第2回野田市立図書館協議会を閉会する。